



# T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『ロータリーは分かちあいの心』

～Rotary Shares～  
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年6月2日

No. 36

『一步一步進もう』

～Let's Move Forward Step by Step～  
東京六本木ロータリークラブ会長

## W E E K L Y R E P O R T



平成 20 年 5 月 19 日  
卓話 『日本のお陰で…』  
ファッション・エッセイスト  
フランソワーズ・モレシャン 様



皆様こんにちは。今日はお話できてとてもうれしゅうございます。今日は「お陰さまで…」と書きたかったんです。生きてることができたのは日本人の皆様のお陰です。日本に来たとき21歳でした。今72ですから51年です。4年前すごく疲れてしまいました。毎日起きる時に疲れて疲れて。ああもういい、フランスに帰るわ。もう休みましょう。それを決めてからですね、もう日本から離れるという見方で日本を見てしもうた。主人は「言ったでしょ。帰るともう見えないでしょ。味わうことができないでしょ。」ああわかりました日本に残りますということになりました。なぜかというところ2つあります。

1つは50年前から変わらない日本の美しさ。日本に来たときの東京、可愛かったわね。まだ一軒家ばかり。一軒家に必ず紅葉の木1つ、飛び石。塀はまだ竹で黒いの紐で、本当に惚れてしまいました。それから京都。お寺、神社も洗練されて。お茶室の入り口何百年前からあるじゃないですか、頭を下げて入らないといけな。いいですねと思いました。私の周り、皆様の周りにもえばってる人。えばってる人は頭がよくないという証拠でしょ。でも頭を下げさせた方がいいと考えたすばらしい哲人、千利休。日本で好きな諺。実るほど…。うん、そう。これはもうエレガンスの基本ではないですか。本当にそういう言葉、考え方、すごく惚れてしまいました。

私の一番好きな本、谷崎潤一郎の「陰影礼讃」。私のバイブルの一つですね。例えば日本の横の灯り、今、上だけだったらもう影はない。影のよさはどこへ行ってしまったんでしょう。暗さがなければ人生ではないですね。人も明るいだけの人。アホ。暗いところがあるから明るいところがやっとな人間。ですから建築関係がすばらしい。障子もお庭があれば額みたいな窓の開け方になるじゃないですか。絵と同じですね。すばらしい自然、石、

飛び石。よくフォーカスできますね。大学でね、女の子たちにスライド見せたんですけれど、みんな泣いたんです。どうして今の大人たちはそれを見せてくれない。明治時代のとき外国ばかり見て進歩、発展。それは分かりますけれども終わったでしょ。もうずーっとね。今、外国かぶれはまちがいのと思います。例えば神道の神様、川にあるわ、石にあるわ、木にあるわ。すばらしいじゃないですか。それと侘び、寂び。私は外人なくせに侘び、寂びについて口を開けるなんてできないと思いますけど分かってしまいましたと思います。部分的。大学の子どもたちは全然分からない。この間、「皆さま、侘び、寂びを知ってますか。」みんな、200人よ。シーン。一人だけ「先生、ワサビと言いたかったでしょ。」（笑い）笑うんじゃなくて泣くべきですよ。それから私、日本に残った一つの例はね、みんな微笑みなさってた国民でいらっしやいました。この微笑みはどこへ行ってしまった。日本に来たとき戦争が終わって10年。まだ大変恵まれてなかった時代なのにみんな微笑みなさってた。（残り時間を気にして）一つ好きではないのは、日本人は内容よりも時間のこと大事みたい。本当に気に入らない（笑い）。

若者たちは侘び、寂び知らない。なんて寂しい時代でしょ。ですから金沢に逃げてしまおうかと思っています。落ち着いて向こうで歳とって。主人は本当はそうしたい。私はまだまだ東京にいたい。東京はやはり刺激的。ということ。本当に今日は皆さま、ありがとうございました。

